

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道3号 <small>かごしまとうざい</small> 鹿児島東西道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：鹿児島県鹿児島市田上八丁目 <small>かごしましたがみ</small> 至：鹿児島県鹿児島市上荒田町 <small>かごしましうえあらたちょう</small>	延長	3.4km		
事業概要					
国道3号鹿児島東西道路は、中心市街地へのアクセス機能の強化、国道3号の交通混雑の緩和や交通安全性の向上等を目的とした事業である。					
H13年度事業化	H12年度都市計画決定 (H25年度変更)	H14年度用地着手	H17年度工事着手		
全体事業費	約808億円	事業進捗率	約33%	供用済延長	2.2km
計画交通量	20,800～47,100台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 1.6	総費用 (残事業/事業全体) 398/749億円 事業費：393/738億円 維持管理費：5.6/11億円	総便益 (残事業/事業全体) 627/910億円 走行時間短縮便益：514/749億円 走行経費減少便益：68/95億円 交通事故減少便益：44/66億円	基準年 平成28年	
感度分析の結果					
【事業全体】交通量：B/C=1.1～1.4（交通量 ±10%）【残事業】交通量：B/C=1.4～1.8（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.2～1.3（事業費 ±10%）事業費：B/C=1.4～1.7（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.1～1.3（事業期間±20%）事業期間：B/C=1.4～1.7（事業期間±20%）					
事業の効果等					
①交通混雑の緩和 ・国道3号や（主）鹿児島東市来線の交通混雑緩和及び旅行速度の向上					
②交通安全性の向上 ・現道の交通が転換することで、交通渋滞が緩和され、交通安全性が向上					
③医療施設へのアクセス改善 ・第三次救急医療施設（鹿児島市立病院）への救急搬送時間短縮による救命率の向上					
④生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）					
関係する地方公共団体等の意見					
鹿児島県知事や鹿児島県市長会等で構成される①鹿児島県開発促進協議会（会長：鹿児島県県議会議長）、鹿児島商工会議所や鹿児島経済同友会等で構成される②鹿児島東西・南北幹線道路建設促進期成会（会長：鹿児島市長）等により早期整備の要望を受けている。（①平成28年11月、②平成28年11月）					
県の意見：					
「対応方針（原案）」案の「継続」については、異存ありません。					
国道3号鹿児島東西道路は、鹿児島インターから鹿児島市街地への交通アクセス機能を強化するとともに、交通混雑の緩和や交通安全性の向上等を目的とした重要な道路と認識しています。					
今後とも、事業が着実に実施できるよう、所要の予算の確保をお願いします。					

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

鹿児島市の人口及び一世帯あたりの自動車保有台数は、事業採択時以降同程度で推移。並行現道の(主)鹿児島東市来線の交通量は約4.2万台/日で推移。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成13年度に事業化、用地進捗率88%、事業進捗率33%(平成28年3月末時点)

平成21年度：鹿児島IC～田上IC間のランプ 延長0.4km部分開通

平成25年度：鹿児島IC～田上IC間 延長0.4km (4/4) 開通

平成25年度：田上IC～建部IC間 延長1.8km (2/4) 部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

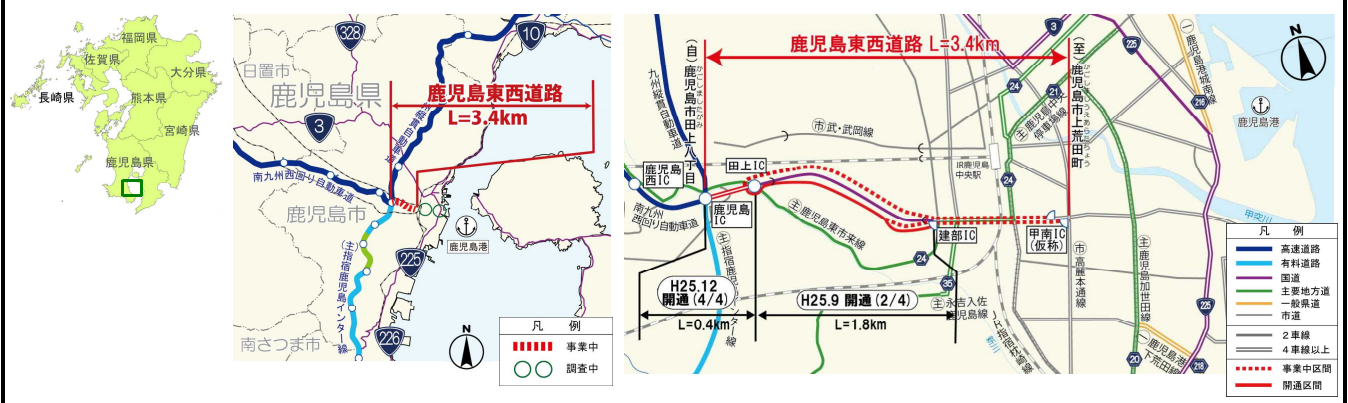
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。